

1. 趣旨

競争的研究費については、産業競争力会議の状況も踏まえ、次期科学技術基本計画に沿った施策展開をしていくために、「研究成果の持続的最大化」のための競争的研究費に係る改革の方向性等について検討していく必要があり、有識者から助言を得るため、「競争的研究費改革に関する検討会」を開催する。

2. 検討事項

①競争的研究費に係る課題の分析に関する助言、②競争的研究費改革の方向性に関する助言 等

3. 構成員

主査	濱口 道成	名古屋大学前総長
主査代理	大垣 眞一郎	公益財団法人水道技術研究センター理事長、東京大学名誉教授
	有信 睦弘	国立研究開発法人理化学研究所理事
	井関 祥子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
	上山 隆大	政策研究大学院大学副学長
	甲斐 知恵子	東京大学医科学研究所教授
	小安 重夫	国立研究開発法人理化学研究所理事
	佐藤 勝彦	大学共同利用機関法人自然科学研究機構長
	角南 篤	政策研究大学院大学教授
	竹山 春子	早稲田大学理工学術院教授
	知野 恵子	読売新聞東京本社編集委員
	橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授
	藤巻 朗	名古屋大学大学院工学研究科教授
	若山 正人	九州大学理事・副学長

4. これまでの経緯と今後の予定

2月20日（金）第1回検討会	4月28日（火）第5回検討会	
3月4日（水）第2回検討会	5月22日（金）第6回検討会	
3月13日（金）第3回検討会	6月4日（木）第7回検討会	人材に関する論点、中間取りまとめ骨子の審議
4月14日（火）第4回検討会	6月10日（水）第8回検討会	中間取りまとめの審議

競争的研究費改革の在り方に関する議論

(1) 改革の必要性

イノベーション実現のために取り組むべきこと

① 融合性、国際性など現代的要請への対応

- 知のフロンティアの拡大の中で、分野・組織を越えた総合力を発揮し、挑戦できる環境整備が必要

② 産学連携の本格化

- 産業界の要請に応じて、大学等が研究活動を拡充することに伴う研究基盤の整備が必要

③ 研究基盤の持続性の確保

- 若手研究者・技術支援者、研究設備・機器などの研究基盤が確保され、より良質な研究成果が持続的に供給される体制の整備が必要

④ 研究時間の確保など研究環境の向上

- 大学等の研究者の研究時間の確保のため、研究を進めるうえで対応すべき課題に大学等が対応することを支援する必要

(2) 間接経費の措置こそが適切

研究機関の組織的取組を進めるため、間接経費を全ての競争的研究費に適切に措置すること

(間接経費の特長)

- ① 研究機関がそれぞれの強みを生かす独自の取組が可能
- ② 所属研究者が外部資金を獲得するほど、研究機関の間接経費も増え、所属研究者と研究機関の協働に好循環を起こす
- ③ 企業などステークホルダーとの組織的対話の本格化を通じ、社会ニーズに応える力を抜本的に強化
- ④ 間接経費の活用に係る戦略や実績の公表を通じ、研究機関の取組の透明性向上等組織的改革を促す

(3) 具体的な措置方法

政府全体として、民間資金も含め措置されるよう総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)と連携

シーズ創出力の強化、産学連携の本格化

非連続イノベーションも含めて研究成果の持続的
最大化を実現

<呼び水>

文科省の競争的研究費を材料に具体策を検討

その他の議論

主な論点	検討会における議論の方向性
①融合性・国際性などの現代的要請への対応	<ul style="list-style-type: none">✓ 科学研究費助成事業、戦略的創造研究推進事業において、分野融合的研究や国際共同研究の推進に向けた取組をさらに加速する。✓ 国際共同研究を進める上での課題（アワードイヤーギャップ等）の解決に向けて、各機関で現在取り組まれている工夫（JST、WPI拠点）について、好事例として推奨することが考えられる。
②研究情報や研究成果の可視化、事業間の府省を超えたシームレスな連携	<ul style="list-style-type: none">✓ ファンディング同士の連携やデータベースを活用した研究情報・研究成果の一層の可視化・共有等によって、多様性のある学術研究・基礎研究からイノベーションの種を見出し、実用化へ向けて育てる仕組みと研究者へのシームレスな支援方策の構築が必要。✓ 競争的研究費の政策的な趣旨・目的による研究費マップ（仮称）の作成により、研究者・研究機関の通覧性の向上、個別研究費の設計、制度同士の連携接続、過度な集中の排除等に資することが考えられる。
③設備・機器の共用促進	<ul style="list-style-type: none">✓ 競争的研究費の直接経費で購入した機器の共用の一層の促進が必要。✓ 間接経費の具体的な活用方策の一つとしての設備・機器の共有に係る組織的取組の奨励。具体的には、適切な金額を超える比較的大型の設備・機器を直接経費により購入する場合には、原則として外部も含めた共用のものとして運用すること（研究者レベルで用いる比較的小型の設備・機器も同様）。

※若手研究者の育成の観点からの研究費の在り方については、次回会議において検討予定

「国立大学経営力戦略」（仮称）に盛り込むべき内容のポイント

（参考）
平成27年4月15日産業競争力
会議課題別会合における
下村文部科学大臣発表資料

1. 大学の将来ビジョンに基づく機能強化の推進

- 各大学の機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため、国立大学法人運営費交付金の中に**3つの重点支援の枠組みを新設**し、評価に基づくメリハリある配分を実施。これにより、**新研究領域の開拓、地域ニーズや産業構造の変化に対応した人材育成等を行う組織へ**と転換。

- 重点支援① **（構想例）地域のニーズに応える人材育成・研究を推進**
主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学を支援 等
- 重点支援② **（構想例）分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進**
主として、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で、地域というより世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学を支援 等
- 重点支援③ **（構想例）世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進**
主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学を支援 等

2. 自己変革・新陳代謝の推進

- 機能強化のための**組織再編、大学間・専門分野間での連携・連合等の促進**（積極的な取組への重点支援等）
- **学長裁量経費によるマネジメント改革**
- **若手が活躍する組織への転換**
（実績に基づく給与体系への転換（年俸制、クロスポイントメント、テニュアトラック制等の促進））

3. 財務基盤の強化

- 新陳代謝を進め、全学的視点での自己改革の実現を支援
- 基盤的経費である**運営費交付金を確保しつつ、改革に取り組む大学にメリハリある重点支援**を実施
- **規制緩和に基づく自己収入拡大**（資産活用、収益事業の拡大等）や、**外部資金獲得^{*}へのインセンティブ付与**（^{*}民間との「提案型」共同研究拡大や寄附金の獲得）

4. 未来の産業・社会を支えるフロンティア形成

- **特定研究大学の創設**によるグローバル競争力強化
- **卓越大学院**を形成し、世界で戦える領域やビッグデータ、AIやIoTなどの融合・新領域を創造できる人材育成を推進
- **卓越研究員**の受入れによる挑戦的な研究の進展

大学改革と競争的研究費改革の一体的な改革

- 研究成果の持続的最大化のための**競争的研究費改革**（国立大学法人の人事給与システム改革が行われることを前提とした**直接経費からの人件費支出の柔軟化**、大学運営・財務状況の更なる透明性を前提とした**間接経費の措置対象の拡大**等）

競争的研究費改革の方向性について

(参考)
平成27年4月15日産業競争力会議課題別会合における下村文部科学大臣発表資料

イノベーション・ナショナルシステムの実現に向け、研究成果の持続的最大化を目的に、競争的研究費制度の改革を断行。また、大学改革との一体的な改革により、我が国がイノベーションに最も適した国となるための基盤を構築。

改革 ①

- 大学等の研究機関においては、外部資金により研究活動を行うに当たって、管理的な経費が必要経費として発生。
- 加えて、より優れた研究成果を生み出すためには、研究支援体制の充実等の環境整備も不可欠。
- しかし、「競争的資金」以外では必ずしも措置されておらず、研究機関の持ち出しが発生。

大学等における**間接経費の使途の透明性向上を前提として、間接経費の措置対象を拡大**する。

改革 ②

- 大学等の研究機関においては、テニユア人材の流動性が低く、特にシニア人材で滞留が発生。
- 一方、外部資金獲得により、主に若手で任期付雇用が大幅に増大し、人材構成が「いびつ」な状態。
- 研究開発力の持続的な維持・発展のためには、これを是正し、人材の新陳代謝を促すことが不可欠。

若手研究者の雇用ルールを整備した上で、**人事給与システム改革の実績を踏まえて、直接経費からの人件費支出を柔軟化**する。

改革 ③

- 左記のほか、競争的研究費を効果的・効率的に活用するため、以下の改革を実施。

- ・ **研究費の使用ルールの統一化**（研究費の使い勝手の向上）
- ・ **シームレスな研究支援の実現**（フェーズ毎の研究プログラム間の接続の円滑化）

など

間接経費を充実することで、**大学改革にインセンティブを与えると同時に、必要な財源を措置**

相乗効果

人件費支出の柔軟化を人事給与システム改革と共同歩調で行うことで、**新陳代謝を促進し、若手が活躍できる環境を醸成**

競争的研究費改革

競争的研究費を有効活用し、優れた成果を創出

大学改革との一体改革

大学改革の鍵となるガバナンス/マネジメントの強化を後押し

外部ステークホルダーの意向を適切に大学等の経営・マネジメントに取り込んでいく土壌を形成